



冬芽。
木々のコート、個性豊かに!

umihoshi
information

アクセス



京都縦貫自動車道經由「与謝 天橋立IC」から
国道178号線を伊根方面へ約25分
京都駅・大阪駅から約2時間



京都丹後鉄道「天橋立駅」から丹海バスで伊根方面へ約40分
「波見口」バス停下車徒歩約30分(約2km)



「海と星の公園下」バス停下車徒歩約15分
(風の谷に続く急な山道です)

問合せ・申込み

京都府立丹後海と星の見える丘公園

開園時間 9:00~17:00(7~9月は20:00まで)

休園日 木曜日(祝日除く)及び年末~2月末

入場料無料/駐車場 200台(無料)

2月末まで休園中

〒626-0211 京都府宮津市字里波見
TEL.0772-28-9111 / FAX.0772-28-9025
✉ e-ds@eco-future-park.jp
http://www.eco-future-park.jp

うみほし通信発行
公園指定管理者



おかげさまで
開園10周年

Contents

Special
あなたの
Sense of Wonder
に 대응します。

~宮津高校 フィールド探究同好会~

イベントスケジュール
森もりキッズ&どんぐりようちえん

NEWS

「うみほし公園に大きなお星さまが登場!
春になったらどこにあるのか探してみてね♪」



うみほしクイズ

木々は冬の寒さや乾燥に耐えるために工夫した芽を作ります。その芽を冬芽(とうが、ふゆめ)といいます。

芽の中には春に向けての花や葉がギュッとつまっています。冬芽は樹木によって形もさまざま。クイズのあとは実際に冬の森に出かけよう!



a【ホオノキ】

葉っぱが40cmにもなる。冬芽もとても大きくて、筆の先みたいな形をしているよ。ここから春には5~8枚の大きな葉っぱが飛び出すよ。



b【クリ】

冬芽は、クリの実に形や色が似ているよ。
クリの葉っぱは冬になっても落ちずに枝にのこりやすいのも特徴だよ。



c【リョウブ】

冬芽は薄い皮(芽鱗)が傘のように開くのが特徴だよ。雨が降らなくても傘をさす用心深いやつだねー。



d【タカノツメ】

冬芽が鷹の爪に似ていることが名前の由来。
タカノツメの枝は、柔らかくてもろいから観察する時には折らないように気をつけてね。

【ムラサキシキブ】

冬芽をよー見たら、毛が生えてたりするなー！毛があると温いんやろなー。



ZOOM!!



【とっしー】

こどもの森、ハッチョウトンボのビオトープ修景計画【イメージ図】



この冬は畔の補修などを行い、ハッチョウトンボを間近で見ただけのようにします!

公園に生息している京都府の準絶滅危惧種である「ハッチョウトンボ」。

これからもハッチョウトンボが暮らせる場所を残せるように、秋から冬にかけてジュル田の草を抜いたり、適度に耕したりします。



春に、みなさんを気持ちよく迎えらるるようについに、がんばります。

うみほし公園 冬のお仕事

①ハッチョウトンボのジュル田プロジェクト



③枯木の処理 植栽木のメンテナンス

森の中には元気のない木や、すでに枯れていて倒れそうな木もあります。

冬の時期に枯木は伐って、お風呂や薪ストーブの燃料にします。



②地球の道の雪囲い

丹後の冬は雪がたくさん積もります。

公園内の「地球の道」にある古代の生きものが描かれた壁画を雪から守るために、わらむしろなどを被せます。



春ガキになろう!2017

3/29(水) ~ 3/30(木) 1泊2日
春の野山をかけまわって、森の中であそんじゃおう!里山にある春の野草を観察して、食べてみるぞ!

参加料金: 15,000円 (1泊4食付)
募集定員: 20名
最小催行人数: 10名
参加対象: 小学1~6年生
募集期間: 3月3日(金)まで
○京都市内からの送迎あり

森もりキッズ&どんぐりようちえん
こんなことができるようになったよ!



春からうみほしDAYで活動してきた「森もりキッズ」(小学生対象)と「どんぐりようちえん」(未就学児対象)。月に1回、その季節にしかできないことや、うみほし公園だからこそできることをたくさん体験してもらいました。

★森もりキッズ
「自分たちで考えて決める」をテーマに、子どもたちが何をするかを決めて活動しました。春はよもぎ団子作り、夏は虫捕りと川遊び、秋は森たんけん、冬は自分たちで火を点けて焼き芋。五感で丹後の季節を感じてもらえたかな!



ひみつ基地づくりやデイキャンプ、パンづくりなど、お父さん、お母さんと一緒に活動しました。春には少し歩いただけでぐずっていた子どもも、11月には自分の足で山登りができました。できることがたくさん増えたね!

special あなたのSense of Wonderに応えます。
～宮津高校 フィールド探究同好会～

「あなたのSense of Wonder(不思議に感じて萌えること)は?」



- 水生生物** 金谷くん: 研究の一環で大手川でもんごりによる生物相調査。その結果、海から1kmぐらまでは海水が入っていることが判明!
- 酵素化学** 西山くん: 進学したらアミノ酸、タンパク質など酵素化学を研究!春になると咲いているタンポポが在来種なのか外来種なのか見たいです。
- 生化学と進化** 間芝さん: 化石なんかの古いものも好きで、小学生の時は歴史好きが高じて、資料館にもよく通っていました。
- 知ることと分かること** 高岡さん: 特別な何かではなく、今までただ植物だと思っていた物が光合成をしてるって知った時「すごいな〜」って思います。
- 歴史や歴史上の人物** 藤原くん: 試しに活動のフィールドワークに同行したとき、顧問の先生から神社などの歴史の話も聞き、もっと学びたいと思って入会を決意!
- 菌** 木本くん: 家業が酒蔵。米からお酒ができるまでの作用が面白い。文殊堂や天橋立、国分寺などの歴史を調査しています。
- 株の流れ** 田中くん: 株価の急落などがあつたときに会社の情報などを調べると、人の信頼度が測れるようで興味深い。
- 灯籠** 岡野くん: 思わず年代を確認してしまう。また、自分の住む町の小字(こあざ)について研究。



自主的な興味の発露として

京都・丹後の小さな町、与謝野町山田地区の小字(こあざ)199件からその地区の歴史や地形を考察し、その結果を発表した高校生がいます。それが宮津高校フィールド探究同好会に所属する岡野くんです。彼の研究はとても細かく裏付けもとられた詳細なもので2016年「第10回全国高校生歴史フォーラム」において優秀賞・審査委員特別賞を受賞しました。また以前に「うみほし公園」でも展示させていただいていました「スジエビ密着24時」という研究。これは宮津高校内の東郷池に住むスジエビを採取し天候や個体の大きさ、照度の明暗によって活動量に変化が現れることを立証。これも同好会会員によるものなのです。いわゆる文系と理系が同じ部の中で各々の研究を

しています。先に挙げた研究も発端は日常での小さな発見。先生曰く「生徒の知りたいをバックアップしたい」。創立2年目の新しい同好会ですが、対象は違っても「自分で課題を見つけて、自分で解決する」ことを目的に活動しているのです。「観察中は食事もままならず、8時間もかかりました」と笑う。「自ら進んでやることなので苦にならない」のだとか。まさに学びの魅力がここにあると言えるでしょう。研究のための基礎知識としての勉強。こんなベクトルをもって高校生の今、スタートできている彼らは素晴らしいと思いました。将来巣立っていく彼らがかわる丹後が楽しみでもあります。



実験のための装置づくりも自分達で試行錯誤する念の入れよう。



顧問 多々納智先生
島根出身ですが、対馬海流にのって丹後へ上陸。「丹後はコンパクトにいろんな自然を楽しめるのが魅力。そして、この自然を守り続けようとしている人がいることが素敵。生徒たちには高校生の間に丹後のことを知って、巣立つときには丹後の広報部長になってほしいです。」

地域に学び、地域から巣立つ。



ちなみに先生の「萌」は? 「いろんな物に萌えてしまう。たとえばスーパーの魚、割烹料理の魚。種類から浜値まで。学生時代はみかんの研究をしていたので果物も。スーパーにはつつい長居をしています。」(笑)

京都府立宮津高等学校 フィールド探究同好会

※印は指導顧問
部員数 3年生=8名、2年生=5名、1年生=6名
活動内容 【文系】※橋本学 高橋寛 中川淳 丹後地域の歴史文化・地域社会を研究する。 【理系】※多々納智 安見孝政 小畑響子 井上耕治 中井巧也 丹後地域の自然・生物を研究する。
活動時間 平日放課後に探究活動、土曜日にフィールドワーク

【活動実績】
○「第10回全国高校生歴史フォーラム」優秀賞・審査委員特別賞(2016年)
○「京都サイエンスフェスタ」研究発表
○「民話等語り部事業」発表
○「海の京都 高校生丹後文化フェスティバル」(京都府教育委員会)発表
○「古典の日」(丹後教育局)発表 「TANGO魅力伝え隊」として参加

